

幸せの歌



JA宗谷南

2014NEN
6GATUGOU
～SEASON35～

J A 宗谷南 第五回通常総会



第5回宗谷南農業協同組合通常総会が、5月30日枝幸町コミュニティセンターにおいて、組合員（本人出席73名・書面出席34名・委任状18名）125名出席のもと、開催されました。

総会は、物故組合員・役職員への黙祷後、JA綱領朗唱、激励状贈呈・目録贈呈・各表彰状の贈呈から始まりました。

総会にあたり向井地組合長は、昨年は、まさに日本の農業、町の一次産業、地域社会がどうなるか、多くの懸念を抱いている環太平洋経済連携協定（TPP）に対しての、反対行動の1年であったことを振り返り、また、政府はここに来て、農業団体のもつとも抛り所であり、全国農協中央会の解体や、農業委員会の上部団体であります、全国農業会議所の見直しを迫る等の、現状の緊迫した農業情勢を報告しました。

また、農協事業運営については、生乳生産量は計画に対し未達成であったが、皆様の日頃の経営努力により、最終的には、昨年の繰越金を合わせ1億1千3百万円の余剰金を計上する事が出来た事を、組合員にお礼を述べ、提案する議案についての審議をお願いし開会の挨拶としました。



議長には、風烈布地区の米内潤二氏が選出され、議案の審議が開始されました。

議案第1号、特別決議の「定款の一部変更」につきましては、出席者の3分の2を越え承認されました。

議案第2号から第5号までの議案も慎重に審議され、賛成多数により承認されました。

その後、報告事項1の「JAバンク基本方針の変更について」・報告事項2の「労働保険事務組合の平成25年保険料の徴収・納付状況について」を報告し、審議並びに報告の全てを終了しました。

総会終了後、宗谷南農協・宗谷南農協青年部・宗谷南農協女性部を代表して、青年部の森次勇治部長が登壇し、「TPPと国際貿易交渉から北海道を守り抜く」の決議文を朗読し、盛大な拍手を得て決議されました。



閉会にあたり向井地組合長は、今現在、農業を取り巻く環境は、TPP・規制改革と厳しい状況ですが、若い人が継承していくためにも、自信と魅力を持って経営を継続して頂きたいと、酪農経営の向上と組織の基盤強化に対してのご理解とご協力を願い、閉会の挨拶と致しました。

表彰状授与

激励状贈呈者

新規就農者 今 賢二氏
後継者 浅見 悦子氏
小林 尚登氏

目録贈呈者

新規就農者 今 賢二氏
浅見 悦子氏
小林 尚登氏
後継者 後藤 亮介氏

表彰状贈呈者

良質乳出荷者 落谷 雅人氏
菅原 一人氏
山崎 孝敏氏

永年勤続者

若山 栄氏
領毛 義広氏
西澤 昌志氏
渡辺 康子氏

第5回通常総会において、新規就農者・後継者には、激励状及び目録贈呈、良質乳出荷者には表彰状が贈られました。また、宗谷南農協同組合の職員で30年の勤続者には、永年勤続の表彰が行われました。



手前から、小林尚登氏・後藤亮介氏・浅見悦子氏・今賢二氏



手前から、菅原一人氏、山崎孝敏氏



手前から、渡辺康子氏、西澤昌志氏、領毛義広氏、若山栄氏

宗谷地区後継者研修 (ニュージーランド・北島編)



幸せの歌34号に引き続き、宗谷地区後継者研修の後編として北島編を紹介します。
 ・研修日程のおさらい
 2月24日～3月3日の8日間で、2月25日にクライストチャーチへ到着し市内観光、翌26日・27日は農家視察、28日は北島のロトルアへ移動し市内観光、3月1日農家視察、翌2日はオークランド観光、3日帰国 という日程でした。



皆で参加した踊りの様子



ロトルア湖畔のブラックスワン



ガバメントガーデン

2月28日、南島から北島のロトルアへ移動し、そのまま市内観光をしました。
 ロトルア湖畔やガバメントガーデンを観光した後、ホテルで、マオリ族のカルチャーショーを鑑賞しながら、伝統料理の「ハンギ」を堪能しました。
 その中で、皆さん踊りに参加しました。男性の踊りは、「ハカ」という相手を威嚇する伝統の踊りで、凄く迫力があり、情熱的でとても感動した楽しい夜を過ごしました。



マクゴーガンさんと記念写真

次に向かったのは、フィンレイファーム(酪農)です。110頭を54畝の放牧地で管理している牧場です。
 この牧場は、先代が湿地だった土地を

翌3月1日は、始めにアグロドームという観光牧場へ行き、羊と牧羊犬のショーを鑑賞しました。
 ショーの内容は、日本語同時通訳のヘッドホンを付けているので、とても分かりやすくしかも、毛刈り体験などもできるようで、日本人にも楽しめる観光牧場でした。
 次に向かったのは、マクゴーガンファーム(酪農)です。100畝の放牧地で280頭を飼養しており、南島の酪農家と同様に季節繁殖をしているため、7月～5月が搾乳期間となっています。
 また、産まれた子牛は、全体の20%を残して、後は販売をし、残った牛はおよそ9か月齢で、育成牧場のような所に預け受胎され戻ってくるようです。
 預託料は、1週間で7ドル50セントで、授精は本交のようです。



パーラー内で糖蜜が舐められるようになっている



搾乳している所を見させて頂きました

木の燃やしカス等で、土を作って牧場にしたり開拓者です。
 夏と冬は放牧草だけでは、栄養が足りないのので、サイレージ・糖蜜・アルファルファ・チコリー等も給与しています。
 この牧場では、シエアミルクカーといって、仕事は現経営主のデレックさんがしていますが、牧場と牛はデレックさんの父親が所有しているので、収入の40%がデレックさん、60%は父親の収入となっています。

今回の視察研修に参加して、ニュージーランドでは、食事のカロリーのが高く、脂っこいものが多い為、ローファットミルク(低脂肪牛乳)が好まれて飲まれている気がしました。
 粉ミルクやチーズ・バターが生産が高いため、輸出货量が大変多く(特に中国の需要が一番多い)、生産された牛乳はほとんど加工品となり輸出されるので、飲料乳としては、ほとんど飲まれていないと話されています。
 日本の酪農とニュージーランドの酪農では、参考になる部分は少なく感じましたが、異文化やニュージーランドの自然に触れる事が出来たのもよかったです。
 次の機会があれば是非行きたいと思いません。

若者と一緒にニュージーランドへ

奥出 ぎい



宗谷管内担い手海外研修に、担い手をはるかに過ぎた私も参加させて頂きました。

初日は、車で旭川駅へ、そこからJRで新千歳空港へ向かい、豊富町からの参加者と添乗員の川村さんと合流し、成田空港へ向かいました。

ニュージーランドまでおよそ11時間の長旅でしたが、寝ていたおかげでそう長くは感じませんでした。

南島のクライストチャーチに到着後、現地ガイドのまさ子さんと合流し研修が始まりました。

最初の視察先は肉牛農家です。

肉の価格は星の数で上下が付き、霜降りの方が価格は上です、そこで「オーストラリアでは和牛が人気でオーストラリア和牛がいるが、ニュージーランドにはいますか？」と質問したところ、「ニュージーランドでは、アンガス種が一番おいしいと思って飼育している。」と笑って答えてくれました。

次に向かったローリンソンファームでは、他の農場でもそうですが、乳頭の洗浄はしない。デッピングもしない。前搾りは1回1分房で4分房を4日かけて行い、間違って乳房炎の牛乳を搾ってもフィルターがいいので、そこで取り除かれるので、タンクには入らないと説明していました。フィルターを見る限り私達が使っているものより太くなっただけだと思いましたが、本人はそう言ってました。

3日目はピキンボトムファームを視察しました、ここはポストデ IPPING だけは行っているということでした。

放牧は虫の害もあるため、4〜5回駆虫剤を使用するそうです。

また、牧草はスタックサイレージを供給しますが、日本でいうカラスのような鳥の糞が、草を腐らしてしまうと言っていました。

4日目は北島のオークランドへ向かい、みな子さんという方が、ガイドをしてくれました。

オークランドでは、2戸の酪農家を視察しました。

1件目はハミルトンのマクゴードンファームで、1000頭に280頭を飼養している農場です。

ここでは、人工授精の話で盛り上がり、高橋さんにニュージーランドに来て授精の仕事をするように猛烈にアタック

していましたが、高橋さんの心境はいかに……。最後に向かったのは、54歳で110頭を飼養する(フリージアン)フィンレイファームです。

丁度日本から、2人の実習生が来ていました。

14頭シングルのヘリボン式ミルクカーで、搾乳を見ることが出来、11歳の男の子が掃除を手伝っていました。

一つして5戸の農家の視察を終了して、「雪が降らないことから1年中放牧なので、牛舎がいらぬという事。牛が5年に一度、草地更新をしっかりとっているという事。牛が小さいためか、1歳で3〜4頭飼養している。配合飼料等

穀類はやらない(ビートを与えている農場がありました)。ほとんどの農場で雇用をしている。物を大切に使用している事。」等が印象的でした。

雪が降らない地方を見ってきましたが、1日に四季があると言われるくらい寒暖の差があり、千歳空港で靴に押し込んでいた冬物の上着が大いに役立ちました。

最終日は、オークランドでお土産を買い、スーパーマーケットを見たりしました。

オークランドには6000人くらいの日本人が住み、また日本からの観光客も多いことから、日本円で買える物ができる所も何件ありました。しかし物価は決して安くはなく、特に乳製品は日本より高く、牛乳は1リットル200円位、バターも300円で500円以上でした。



ガイドのみな子さんも乳製品は高いからあまり買えないと言っていました。

95%も輸出しているのに国内価格がなぜそんなに高いのか尋ねると、国際価格に合わせているという事でした。

バターはクリーミーでおいしいというので、缶入りバターを買ってきましたが、断然日本の方がおいしいと思います。

牛乳も日本の方がおいしい事に改めて気づき、これからは自信を持って酪農をやっていけるという思いで帰ってきました。

今回の視察には組合長始め、JAの皆様大変お世話に

なりましたことを、紙面をお借りいたしましたし、お礼申し上げます。

そして、今回の視察が参加した皆様の糧となり、それぞれの職業で活かされる事を期待します。

ニュージーランド視察研修へ参加して

田辺谷 初男



ニュージーランドを視察して、まず思ったことは、素直に規模の大きさに圧倒されたことです。

同時に歌登では出来ないなあとも思いました、大きな理由としては気候の差です。

日本では1年間放牧という事が絶対に無理だと思えずし、ニュージーランドでは一般的な、放牧草の成育ステージに搾乳を同調させているので、冬季(6月〜7月)は生乳生産は限りなく0に近く、そのためこの期間の酪農家は2カ月休業できるようです、日本の酪農業は休みが無いに等しいので2カ月バカンスと言いうのは凄くうらやましく、日本では難しいと思いました。

また、ニュージーランドでは酪農家と結婚できれば玉の輿という感じで、酪農家と結婚したいという考え方の女性が多いみたいなので、今回の視察で思ったことは、日本の酪農のイメージもニュージーランドの様な、酪農家と結婚したいと思わせられるような意識を与えられるように頑張っていかなければならないと思いました。

最後に、このような機会を与えてくれました、農協や関係機関の皆様感謝とお礼を申し上げます。



最後に伺ったフィンレイファームのデレックさんと記念写真

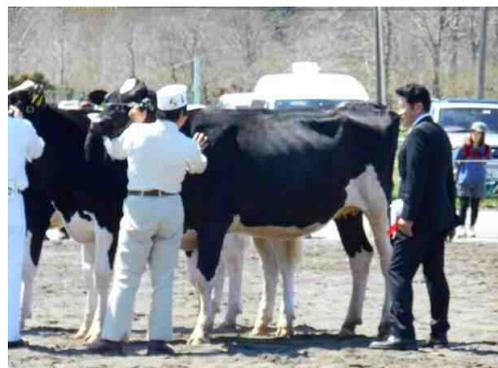
道北ブラックアンドホワイトショウ開催

5月10日(土)豊富町乳牛共進会場にて、道北ブラックアンドホワイトショウが開催されました。

宗谷・留萌から119頭が集まり、宗谷南農協からは、小椋義則さん、高橋慶太さん、寺前吉幸さん、澤田和人さん、関口真也さんの5件13頭が出陳されました。

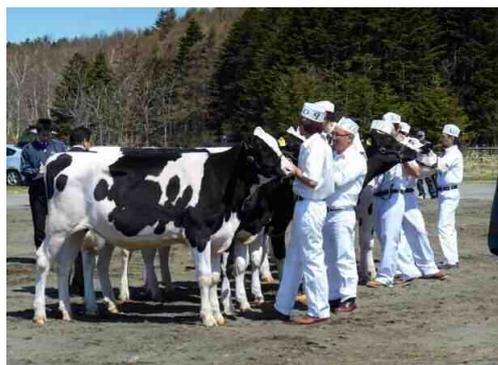
審査員は「オールジャパンプリーダーズサービス(株)」の高橋 忠司さんがあたり、甲乙つけがたい乳牛達を前に非常に悩んで審査されてました。

グランドチャンピオンに輝いたのは12部で出陳された、「ノースフィールド アドベンド ビンザー」号(幌延町・無量谷 裕氏所有)です



JA宗谷南出陳入賞牛

部	名	号	出陳者	成績
1部	オムラ	アツトウツド ブラッドレー	小椋 義則	2位
2部	オムラ	オルタイム キヤロウエイ	小椋 義則	6位
2部	ポールスター	ダイバイン スパークリング	高橋 慶大	9位
2部	M. F	アフターショツク ストーマテイツク	関口 真也	10位
3部	ポールスター	アルタアメイジング ベルウッド	高橋 慶大	2位
5部	ハーバービュー	シド マリー	寺前 吉幸	3位
7部	J C	ルデーシド シャーレツテイ	澤田 和人	1位
7部	オムラ	ジヤスター ET	小椋 義則	2位
7部	オムラ	メグ ルーバル	小椋 義則	4位
7部	M. F	ネル ローソリテイ	関口 真也	6位
10部	M. F	ロベル バーンズ ラステイ	関口 真也	2位
12部	オムラ	スイート メモリー ET	小椋 義則	6位



JA宗谷南女性部第5回通常総会

5月14日酪農振興センターで、女性部通常総会が行われました。

平成25年度は、例年がない雪解けの遅れや干ばつの影響、夏の高温が続くなど乳牛の飼養管理については、きめ細やかな対応が迫られた1年であったことや、女性部として、安心安全で良質な食糧生産に自信と誇りを持ち、女性部としての目的と役割を踏まえ、漁協女性部との交流・視察研修・生活工夫展・地域のイベントへの参加・グループ活動を通じ心豊かな農業生活環境づくり等に取り組んできた事を報告し、女性部の活動にあたり協力頂いた、JA宗谷南、青年部、農業改良普及センター、(株)よつ葉乳業等、関係機関へのお礼を述べ事業報告としました。

また、平成26年度は、道女性協の3カ年計画である「JA女性、心ひとつに、今をつむぎ次代へつなごう」の2年目として、挑戦する・つながる・協同するを3本柱として、生活の安定や豊かさ、楽しさを求める組織作りを目指していくとしました。



6月6日女性部により行われた、岡島にある看板下の花植え作業風景

公共育成牧場入牧

5月28日～29日公共育成牧場の入牧作業が行われました。

昨年度より、育成牛の受け入れが開始され、哺育時から預かっていた育成牛と、町内より預託された育成牛合わせて、770頭が放牧地へと放たれました。

当日は全道真夏日という、とても暑い中で作業にあたったのは、町内若手酪農家とアグリサポート枝幸職員・町職員・農協職員のおよそ50名が滝のような汗を流しながら、元気一杯の育成牛を酪農家から入退牧施設へと集めました。

入退牧施設では、体重測定や虫除けを施したのち、群分けをして、放牧地へと移動しました。初めての広い放牧地に牛達もトラックから勢いよく飛出し、元気よく走り回っていました。

秋の退牧時には100kg増となり受胎され、酪農家の下へ帰される見込みです。



職員採用情報



本田 孝義です(ほんだ たかよし)
5月よりスタンドへ配属になりました。
皆様にご迷惑が掛からない様に頑張りますのでよろしくお願いします。



三浦 清二です(みうら せいじ)
6月より移動購買車で皆様の所へお伺い致しますので、沢山のお買い物を、宜しくお願いします。

新人酪農ヘルパー紹介

すでにご存じの方もいらっしゃると思いますが、昨年12月～今年の5月で、皆様の仕事のお手伝いをしてくれる酪農ヘルパーが3人増えましたのでご紹介します。



園原 敬士です(そのはら たかし)
趣味は日曜大工です。
早く地域になじめるよう、また初心を忘れずに頑張りますので、よろしくお願いします。



吉田 圭志です(よしだ けいし)
神奈川県より参りました、趣味はスノーボードとバスケットボールです。
今後は少しでも皆様の負担が少なくなるように、一生懸命頑張りますので、宜しくお願いします。



庄司 恵美です(しょうじ めぐみ)
幌延町出身で、音楽鑑賞とドライブが趣味です。以前(3年前)にも酪農ヘルパーとして働いていた事があります。早く仕事を覚えて作業を効率よく行えるよう頑張りますので、皆様の御指導の程、宜しくお願いします。



ニュージーランド研修特別編

ニュージーランド研修で、奥出きいさんが聞いてきた、ニュージーランドの歴史が面白かったのでご紹介したいと思います。

ニュージーランドは約8000年前、大陸から離れ、島となりました。約1000年前、先住民のマオリの人々が犬とネズミを連れて上陸し、生活するようになりました。(実際は、ネズミは連れてきたのでは無く荷物に紛れていたようです)

1642年、オランダ人がこの地に上陸しましたが、言語や習慣の違いから争いになり、オランダ人が殺される事件が起き、野蛮な人種とレッテルを張られ、オランダ人はこの地を去ります。

1769年、イギリス人のキャプテン・クックが上陸し、マオリの人々と話し合いこの地に住む事を認めてもらいます。



ジェームス・クック

1840年、ニュージーランドは、イギリスの植民地となり、1850年に800人の移民を連れて、南島の中心都市である、現在のクライストチャーチに、イギリスに似た町を作ったそうです。

ニュージーランドには外敵がいなかったため、飛べない鳥が数多くいましたが、イギリス人が狩りを楽しむため、うさぎを持ってきて放しましたが増えすぎてしまい、駆除用のイタチを持ってきて放しました。しかしイタチはうさぎを追うよりも飛べない鳥を捕まえる方が簡単のため飛べない鳥が少なくなってしまいます。それで今度は、イタチの駆除にポッサムという動物を持ってきて放しましたが、これも鳥を襲い飛べない鳥だけが少なくなってしまったという事でした。



現在では、これらの鳥は無人島で保護されているとの事です。

編集委員
成高松高村
田橋本島田
圭真祐理太
吾寿斗恵
美

